

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500328		
法人名	株式会社 笑顔いちばん		
事業所名	グループホーム笑顔いちばん各務原		
所在地	岐阜県各務原市蘇原新栄町3丁目6番		
自己評価作成日	令和5年1月19日	評価結果市町村受理日	令和5年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190500328-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和5年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員目線での介護ではなく、御入居者様目線やご家族様のご希望などを取り入れ日々笑いながら日々の生活が送れる様に努めています。
 広いフロアを生かして日中はフロア中心でのご生活で、御入居者様同士や職員が日々関わり、お話やレクリエーション活動またコーヒーなどを飲める環境を作り、毎日体操を行いリラクゼーション機器などもご利用頂き、筋力維持に努めています。協力機関医・訪問看護とも連携・相談を行いいつもでも健康的で自分らしい生活が出来る様に支援させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全利用者のベッドに介護支援センサーを使用し、夜間の見守りのみならず、利用者の体調管理に繋げている。MCSメディカルケアシステムを導入し、医師、看護師、職員と情報を共有し、即時に連絡が取れるようにしている。コロナ禍で外出が難しい為、散歩や室内の機能訓練で運動不足を解消し、機能低下とならないケアに努めている。職員は有資格者が多く、玄関に職員個々の目標を掲げ、向上心を高めている。管理者及び職員間の風通しの良い人間関係が構築されており、意見交換がしやすい。今年の3月に介護ロボット展示会の開催があり、重度化対策として前向きに導入を検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自社理念の「笑顔づくりは街づくり」を常に念頭に置き管理者、職員間で共有し利用者様の笑顔を引き出せるようなケアを実践している。	理念について学ぶ「社長塾」を毎年開催し、その中で、いかに利用者の笑顔を引き出すか、また、地域密着を踏まえた地域との関わりを如何に実践していくか等、具体的な方針を職員に伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の継続により地域参加が思う様に出来ていないが、施設玄関で近所の方と御入居者様で挨拶が出来たり実習生の受け入れを継続したり孤立する事が無い様努めている。	コロナ禍で地域の行事は中止されているが、自主的に周辺の清掃活動を行ったり、地元の高校の実習生を毎年受け入れている。昨年の課題に対する取り組みとして、介護に関する相談窓口設置を検討しており、すでに地域住民が見学と相談に訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	御入居者様の御家族様や電話でお問合せ頂いた方、またご見学にいらした方などに実績や認知症の事について話をする機会を持ち説明出来る様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年もコロナもあり書面開催になっているが、取り組み報告から頂いた意見によりBCPの作成、避難訓練の対応などサービス向上に努めている。	今年も全ての運営推進会議が書面開催となっており報告書送付後、委員から意見を貰っている。コロナ禍に於いて、感染を最小限に抑える努力をしていた職員に、委員や家族からは感謝の言葉や、今後に向けての助言も受けている。	運営推進会議の報告書等を整備し、事業所の状況を伝えている。それを受けた委員からの意見、事業所とのやり取り、取り組み状況を再度、議事録としてまとめ、再配布する等の工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃からの連絡は密にはとれていないが、施設の情報の伝達や、コロナによる報告また支援などの協力を頂いている。	事業所として、市への相談や報告等を行っている。コロナ対策として、県や市からは消毒液、マスク、ガウン等の防護具の支援を受けたり、コロナに関する情報交換を常に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が身体拘束に当たるのかなど、勉強会を行い身体的だけでなくスピーチロックなどの話し方も学んでいる。玄関の施錠は行っている。	権利擁護研修として、身体拘束等の適正化や虐待防止について、同法人のアカデミーから講師を招き、3か月に1回の頻度で内部研修を行っている。また、2か月に1回ケアカンファレンスを行い、現場の中で起こりやすいスピーチロックについても、学習の機会を設けている。玄関のカギは防犯目的で施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてどういう状況で起こる事が多いのかなど過去の事例を見て、勉強会を行った。身体状況も報告書にて提出し職員で共有している。		

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度に関し、利用されている御入居者様もいらっしゃるが制度に関し管理者・リーダーなど一部のスタッフは理解出来ているが、全体化には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、御家族様に分かり易く説明し、納得できているか確認しながら契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部への発信は出来ていないが、御入居者様からは日々、御家族様からは3か月に1回の意向確認や来所時などで意向や要望などを聞く機会を設け、カンファレンスなどで意見交換し反映出来るものを取り入れている。	利用者の思いや意向を、日々の会話から引き出すよう心がけている。毎月、個別に利用者の写真と担当職員による手書きのメッセージを添えた便りを送付し、電話や来所時にも意見を聞きながら、運営に活かしている。また、年1回、家族アンケートを実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを行い運営状況や職員の意見及び提案を聞き現場に反映している。	管理者は日常的に現場に入り、いつでも職員と意見交換を行なっている。また、全体会議、ユニット会議は定期開催し、職員の意見や提案を運営に活かしている。職員の資格取得については、それぞれがステップアップできるよう積極的に受講を促し、資質向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の向上心をそぐことの無い様に現場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量を把握し、法人内外の研修に参加へ積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の研修や、他県の施設との研修も参加し勉強会や、各施設での取り組みなどを聞き取り入れサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の状況や生活などを事前に職員間で共有し、入居後は職員全体で関り、他入居者様との繋ぎ役、不安ややりたい事などの要望を聞き対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前面談や施設見学等で御家族様の不安や要望を聞き取り、入所当初は都度電話連絡をおこなったりとお互いに相談し合える関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談から入居直後までの話しを聞く事により「その時」に必要な情報を計画担当者が入居書に入れるなど支援方法を確立できる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自宅などで行っていた家事など、それぞれの方の生活においてやって来られたことを施設でも行って頂き、残存機能を生かして共に助け合う環境づくりが出来る様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月に家族様通信により施設のイベントや日々の生活の様子をお知らせし、またGHのホームページお知らせから日々の出来事などを定期的に写真付きで発信、また電話や来所時にも話をしながら良好な関係が出来る様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の継続によりご家族様以外の面会や、大切な場所に行く事が出来ていないが、ご家族様が同行して下さる近所の方とのオンライン面会などは実施している。	家族とのオンライン面会の際に、家族が利用者の馴染みの友人も伴うなど、工夫しながら交流を図っている。今後、コロナ感染症予防対策の緩和に伴い、アクリル板やビニールシート越しの面会実施について、検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が関り、御入居者様が孤立することの無い様に間に入ったり、職員とコミュニケーションを図り、施設全体として人が関わって行ける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様等相談などあった際には誠意をもって対応させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に生活の中で御入居者様から話をし、ケアカンファレンスを開き御入居者様目線での計画書作成にあたりご本人様の希望に寄り添った支援が出来る様に努めている。	管理者と職員は、まず、利用者の思いを「聴くことから」と考え、じっくり聴く姿勢で意見を拾い、個別計画に活かしている。自分の気持ちを表現することが困難な利用者は、家族の協力も得ながら、本人本位の思いを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前迄の本人様の生活歴、生活環境をご家族様に伺い、現在までの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送りなどで現状の共有と心身状況にも必要時には訪看にも協力して頂き把握対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様及びご家族様の意向を反映した介護計画を作成し定期的に見直しを行いご家族様に説明を行っている。	家族からは来所時や電話にて、思いや意向を聞いている。介護計画の見直しは、利用者に変化がない限り3か月毎に行っている。MCSメディカルケアシステムで医師や看護師からの情報を得て、本人の意向を含めて担当者と話し合いながら、ケアマネジャーが介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の状況の把握、共有を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスだけに捉われず、新規の方や状態変化した方に個別にどう支援するか話し合いそれぞれに合ったサービスが出来る様に努めている。		

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍が終息し以前の様に買い物や外泊、喫茶店など行けるように下肢筋力が衰えない様に運動や体操など行い支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を基本としつつ、施設の協力医療機関の医師や訪問看護ステーションとも連携を取り利用者様が適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に、かかりつけ医は自由に選択できることを伝えている。現在、全利用者が協力医を選択し、月1回の往診と週1回の訪問看護、歯科の往診も定期的に受けている。看護師からの情報は、医師と常にICTの活用で情報を共有し、利用者の体調を把握している	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとも定期来所以外にも電話や数通りの情報共有ツールを使用し報告、処置の方法、ドクターへの連絡等の安全に対する支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	往診にて協力医とも注意事項を共有し利用者様が入院される際には本人様のストレス軽減の為に医療機関に対して本人様の情報提供やケアについて話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医及びご家族様と意向確認を行いながら対応の共有を図っている。	入居時に、重度化や終末期について事業所の指針を説明し、家族の意向を聞いている。家族の思いも変化していく事を理解し、随時、意思を確認しながら、事業所として出来る事を説明し、ケア体制の構築に取り組んでいる。	1年前に看取りを経験している。職員の誰もが不安なく看取りに向き合えるよう、詳細なマニュアルの作成が望ましい。重度化に伴う意思確認書を作成し、本人・家族の思いを反映できるように、医師、看護師とともにチームでの支援に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時などの対応は現状のマニュアルにより周知し行っている。また訪看とも毎月打ち合わせを行い改善点を出し更新している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPの作成を行い、水害や災害の対策マニュアルを作成している。 火災については避難訓練や消火訓練・通報の訓練を実施している。	火災時の初期消火、通報訓練、避難訓練を年2回行っている。地震時には事業所の駐車場を開放するとし、近隣住民との協力体制を整えている。BCPの作成により、改めて事業所の体制を確認、整備する中で、2階のベランダから避難するための昇降機を増設する計画がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症を病気としてでなく個性として、誇りや人格を尊重し対応する事に努めている。言葉遣いなども社内研修にて学びながら注意し対応している。	同法人アカデミーの講師による権利擁護研修で、人権について学んでいる。研修に参加できない職員には資料を渡し、学習を勧めている。接遇研修については、年1回行っている。浴室ドアの内側にカーテンを下げ、トイレは短時間介助を心掛けるなど、プライバシーの確保にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、その人らしい希望や願いを引き出し自己決定が出来る様に支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様お一人お一人のペースに合わせて都度、柔軟且つ適切な関わり方を持ち希望に添った支援を行える様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族様とも協力し、季節の服や新しい服などお持ちいただき着用して頂いている。また判断が難しい方には2択から選んで頂いたりなど支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホットプレートで皆様で焼きそばなど作って頂いたり、野菜を洗ったりちぎってもらう作業などお手伝いして頂いている。片付けなども出来る方は自発的にされている。またフルーツや食べたい物を聞き、おやつやメニューに取り入れたり出来る様努めている。	昼食は配食サービスを利用し、利用者に合わせた形態で提供している。朝・夕の食事とおやつは、利用者の希望に合わせて近くのスーパーに職員が買い出しに行き手作りしている。外食ができない分、ホットプレートでのおやつ作り等、楽しめるよう工夫している、1月単位でカロリー計算、水分量、体重測定等で個々の体調管理を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分量は不足が起こらない様毎食後記録し把握、一時的に食事量が落ちたりした方はご家族様とも相談し過去に好まれていた物を提供し、協力医とも相談しながら支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声掛けを行い、出来る方には個人で行って頂き、介助に必要な方には職員が歯科往診とも連携し適切な口腔ケアを行い支援している。		

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を考慮しつつ、オムツ等の使用を減らし本人様の排泄パターンの把握に努めている。又状況に応じて声かけを行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握しながら、トイレでの排泄が習慣となるよう支援し自立に繋げている。昼夜とも、声掛けと誘導を行い、排泄用品の負担軽減に繋げている。現在、2名の利用者のみ、夜間はポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便周期の把握をし、入居者様からの聞き取りや腹部マッサージなど行っている。また医療とも連携し、排便薬や坐薬など個人に合う適切な薬を処方して頂き支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様と職員で相談し、入浴日の決定は行っている。時間帯は決めているが、状況により昼や夜間にも入浴して頂く様支援している。常にくつろいだ気分で入浴して頂ける様、支援に努めている。	入浴は週2回を基本とし、1日2～3人の介助を行っている。本人の希望に沿って、曜日の変更や同性もしくは異性介助で支援している。1階にシャワーキャリー、機械浴があり、利用者の状態に合わせて、複数介助で安心・安全な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の入床時間各自の意思で入床して頂く。介助の方もその方の睡眠リズムにより職員が介助を行う。夜間の消灯・温度管理等も安定しているように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬情報を把握し薬の副作用、用法、用量の把握に努めている。飲み忘れや誤訳を防ぐ取り組みを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	イベントやレクリエーション活動、などは随時行っている。また全体の物と、過去の趣味や仕事などを生かした物など分けて行っている。また食に関しても食べたい物が食べられる様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により買い物や外出に関して制限はあるが、季節によってドライブに行ったり、日々敷地内や近場まで散歩や、ベランダでの日光浴は随時行っている。	地域の感染拡大状況を見ながら、感染予防をした上で、ドライブや近所を散歩している。また、ベランダでの外気浴やお茶会も楽しんでいる。新型コロナが感染症法上、5類移行となって落ち着いた時には、買い物や喫茶店にも出かける予定としている。	

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設側が金銭管理を行っている。必要があればご家族様、及び施設側で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には施設側が御家族様対応を行っている。ご家族様及び利用者様が必要と仰られた際には対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は利用者様が使いやすいように職員間で話し合い、障害となるものは設置しないよう努めている。 利用者様と一緒に季節の作品作りを行い季節感のある生活を送って頂いている。	生活機能改善室があり、同法人のデイサービスからPTの指導を受け、器具を使った運動が行えるようになっている。浴室を含め、全体の空間が広くとられ、開放感がある。居室を出るとすぐ、共用空間に出られるようになっており、好きな場所のソファや食卓等で、自由に寛げるようになっている。職員は、キッチンにいても、全体を見渡すことができ、死角になるところがない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間も広く、ソファのエリアやテーブル席のエリアがあり職員も関わりながら個人の場所や、仲の良い方だけで話せる環境が支援出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様及びご家族様の要望に沿った家具の配置、出来ればご自宅で使っていた物などを使用し、ご家族様の写真なども飾り安心できる居室であるよう努めている。	共用空間を中心にして、居室が配置されている。各居室にはベッドとエアコンは備えられており、壁の色や素材は部屋ごとに異なっている。馴染みの家具を持ち込むことができ、作品を飾ったり、仏壇を持ち込む人もあり、個性的な部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かし、「出来る事わかる事」が継続し出来る様に職員はそのお手伝いとして参加支援している。		